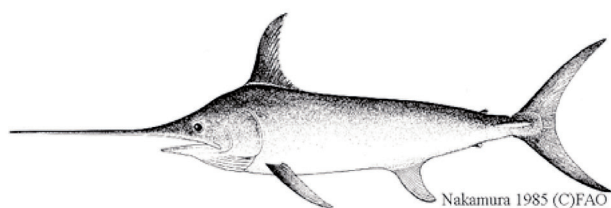


メカジキ インド洋

Swordfish, *Xiphias gladius*

Nakamura 1985 (C)FAO

管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

最近の動き

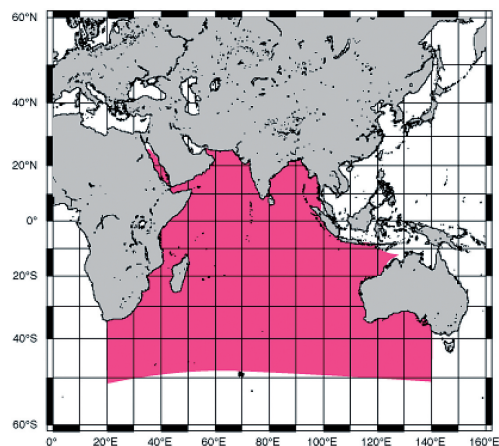
2012 年にソマリア沖の海賊活動が収束したため、総漁獲量が急増して、2014 年に 10 年振りの水準に復活した。インドネシアが最大漁獲国となった。

生物学的特性

- 体長・体重：最大 455 cm (眼後叉長)・550 kg
- 寿命：30 歳以上
- 成熟開始年齢：雌 (6～7 歳)、雄 (1～3 歳)
- 産卵場：ソマリア沖、ジャワ島沖
- 索餌場：マダガスカル東南部沖合、南アフリカ沖合域及び豪州西部・南部沖
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：小型歯鯨類、さめ類

利用・用途

刺身、寿司、切り身（ステーキ、煮付け）



インド洋におけるメカジキの分布

漁業の特徴

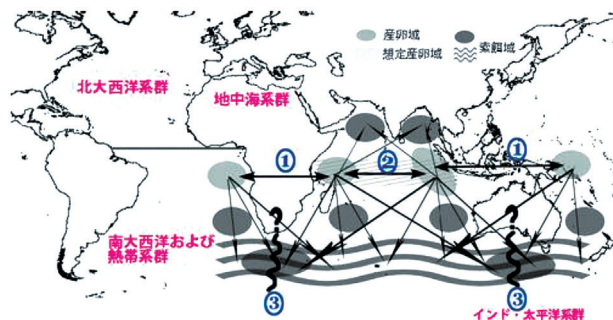
本種は、日本及び台湾のまぐろ類を対象としたはえ縄の混獲として（台湾は時には対象種として）、1950 年代より漁獲されている。1990 年代からは、沿岸国・島しょ国（スリランカ、インドネシア、レユニオン、インドほか）がメカジキを対象とした操業を開始した。また、2000 年前後よりスペイン及びポルトガルのメカジキはえ縄漁船が遠洋漁業に参入した。

漁獲の動向

本種は、日本及び台湾のまぐろ類を対象としたはえ縄漁業の混獲として（台湾は時には対象種として）、1950 年代より漁獲され始め、1990 年初めまでの約 40 年間に総漁獲量は徐々に増加し、1992 年には 1.5 万トンに達した。1990 年代に入ると、沿岸国や島しょ国がメカジキも対象とした操業を開始し、さらに台湾の漁獲努力量が増加したため、総漁獲量は 1993 年には 2.6 万トンへと増加した。総漁獲量は、その後も増加を続け、1998 年に 3.8 万トンに達し、第 1 回目のピークを記録した。しかし、1999 年から総漁獲量は減少し、2001 年には 3.2 万トンまで落ち込んだ。この頃よりスペイン及びポルトガルのメカジキはえ縄船が遠洋漁業に参入したため、2002 年より総漁獲量は再度増加し、2004 年に 4.0 万トンと最大漁獲量（第 2 回目のピーク）を記録した。しかし、2000 年半ばからソマリア沖の海賊の活動範囲が拡大し、まぐろはえ縄船が他の大洋へ移動し漁獲努力量が減少したため、総漁獲量は 2005 年から減少し 2011 年には 2.2 万トンまで落ち込み、1992 年以来 19 年間で最低の漁獲量となった。2012 年に海賊活動が収束し、一部はえ縄船（台湾・中国）がソマリア沖へ戻りつつあるため、総漁獲量は 2012 年以降急増し 2014 年には 2005 年以来 10 年振りに 3.5 万トンとなった。2014 年はインドネシアの漁獲量が急増し 8,800 トンとなり、台湾を抜いてメカジキの最大漁業国となった。

資源状態

資源評価の結果は不確実性が多く、親魚量などは信頼のある結果が得られなかったため、以下相対値で示した。2014 年の IOTC における、SS3 によるインド洋全域の資源評価（1950～2013 年のデータを使用）の結果（SSB/SSB_{MSY}=3.1、F/F_{MSY}=0.34）、資源状況は安全な状態となっている。南西インド洋における ASPIC による資源評価の結果（TB/TB_{MSY}=0.94、F/F_{MSY}=0.89）、資源量が MSY レベルを若干下回っている（神戸プロットの MSY に近い黄色ゾーン）。



インド洋におけるメカジキの産卵域及び索餌域 (IFREMER 2006 改変)

管理方策

インド洋全域では、漁獲圧も産卵資源量も MSY からかなり離れた安全レベルにあるので現在管理方策はない。南西インド洋では、地域的な乱獲状況が継続しており資源量が MSY レベルに復活するまでは、漁獲量は 6,000 トンを超えるべきでないといった管理方策が勧告されている。

資源評価のまとめ

資源評価の結果には不確実性が多く、親魚量は信頼のある結果が得られなかったため、以下相対値で示した。

■インド洋全域では SS3 による資源評価。親魚量は MSY 水準の約 3 倍。F は MSY 水準を下回り、資源は安全な状況。

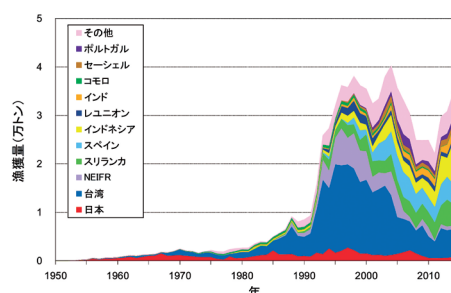
■南西インド洋では ASPIC による資源評価。資源量は MSY 水準を若干下回る。F は MSY 水準を下回る。

■資源全体では、高位、増加傾向と判断される。

管理方策のまとめ

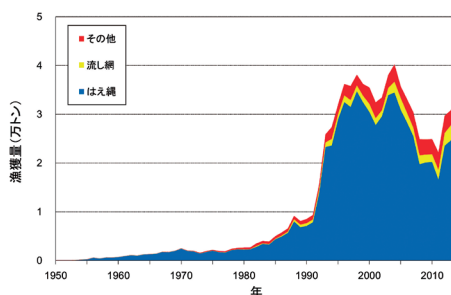
■インド洋全域は、特に管理方策なし。

■南西インド洋は、資源量が MSY レベルに回復するまで、漁獲量を 6,000 トン以下にする。

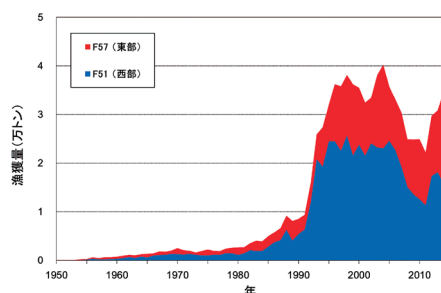


インド洋におけるメカジキの国別漁獲量（1950～2014年）
（IOTC データベース 2015 年 9 月）

NEIFR：Not Elsewhere Included FR Fresh（生鮮まぐろ漁船）



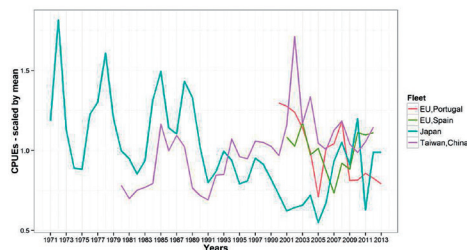
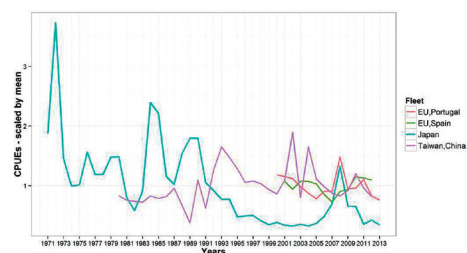
インド洋におけるメカジキの漁法別漁獲量（1950～2014年）
（IOTC データベース 2015 年 9 月）



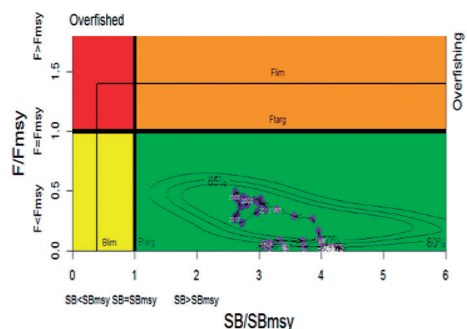
インド洋におけるメカジキの FAO 海域別漁獲量（1950～2014年）
（IOTC データベース 2015 年 9 月）

メカジキ（インド洋）の資源の現況（要約表）

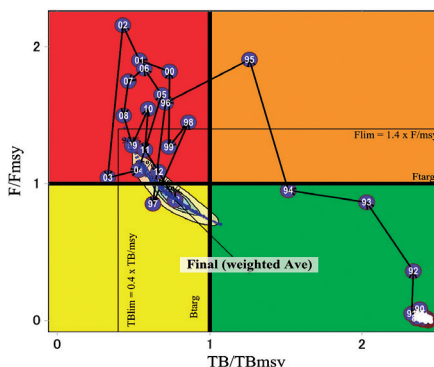
資源水準	高 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	2.2 万～3.5 万トン 平均：2.9 万トン（2010～2014 年）
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	576～771 トン 平均：652 トン（2010～2014 年）
最新の資源評価年	2014 年
次の資源評価年	2017 年



標準化されたメカジキはえ縄 CPUE（上図：インド洋全域、下図：南西インド洋）
赤：ポルトガル、黄緑：スペイン、緑：日本、紫：台湾



インド洋全域における SS3 による資源評価の結果
（資源状況の変遷を示す神戸プロット）



南西インド洋における ASPIC による資源評価の結果
（資源状況の変遷を示す神戸プロット）